

の内容に就て詳細なる説明を試み、之を容ることなき如何なる仲裁案にも腹し難きを述ぶるところあり、國粹會側は、尙氏に再考を求め温言の中に針を包みて之を脅威す。十三日西尾氏は公會堂三號室に於て、樋口氏等に面會し調停を謝絶せり。

▽連日の示威運動

斯くて兩者互に對峙して相譲らず、形勢は次第に險惡ならんとするあり、爭議は益々紛糾して解決は愈々遷延するに至れり。

曩に職工總解雇の一大鐵槌を下し高壓手段に依りて職工側の氣勢を殺がむと計りたる會社側に於ては、案に相違して却つて職工側を激發し、徒らに反撥心を強めたる結果を得しも、今更に之が撤回も成らず、其の當然の歸結として解雇職工中の未復歸者に對し、第一回爭議にて締結せる改正新規定(六月一日より實施すべきもの)に準據して安治川の三百八十一名(平均各百六拾圓餘)春日出の二百三十九名(平均各百拾圓)餘に對し夫々解雇手當を十六日より支給すべき旨通告を發したり。

一方職工側にありては連續演說會を開催して氣勢を擧げつゝあり、十四日に於ける九條市民殿に於ける同情演說會に至りては空前の盛況にて滿場立錫の餘地なく、各辯士等の熱烈悲壯なる語句に聽衆は太く感動し、昂奮の様表情に現はれ、必ずや何等かの方法に於て紛擾を惹起すべしと危まれたる

が、果して閉會後尙解散せず、其の儘一大示威行列を開始し、多數群集の之に追隨するあり、端なくも警戒の警官隊と衝突するに至れり。尙當日の狀況を明かにする爲左の新聞記事を摘録すべし。

大電の誠首職工問題は兩者の睨み合ひから連日の示威運動と連夜の演會とに益氣勢を昂め遂に大紛擾を惹起するに至つた。十四日も午後七時から九條市民殿で演說會を開いたが示威行列をし乍ら四方から參集した者、定刻前既に八百餘名に及び會場に溢れた。

定刻友愛會員の開會の辭に次で誠首職工の五分間演說があり何れも會社の處置不當を鳴らした。此時突如として安治川支部の誠首職工松田安太郎の妻八重子(二七)が壇上に現はれ金切聲を振絞つて其の苦衷を訴へた。之に力を得て更に二三の女房連も立上るといふ一幕を演じ引續き刷子工、友禪工、印刷工、仲銅の同情各組合、友愛會京都、神戸兩支部員等十八九名舌端に火を吐いて滿場を搖がせた、最後に友愛會の東氏登壇

「今夜は示威運動を行ふ積りであつたが當局が許可せぬので遺憾乍ら行列は決行出来ない。然し三三五々道路を行くには何等法律的拘束がないから其の方法で豫定行列の道順を歩かう」

と言ひ出したので、一同は大喚聲と共に午後九時會場を雪崩れ出で安治川、春日出の兩發電所に向つた。斯くて聯合労働員千三百名は各團旗を押し立て「労働歌」を高唱しつゝ、驅足を以て九條、本田を経て午後九時五十分頃端建藏橋西詰に差し蒐つた。この時四百名の警官隊は端建藏橋の電車並に一般交通を遮斷すると同時に垣を作つて「止まれッ」と一齊に叫んで労働團の通行を一時阻止しやうとした。これを見て殺氣立つた労働團は「邪魔をするな」「何故通さぬ」と口々に怒號し警官隊と揉合つてゐる裡に何者か「ヤレ〜」と叫ぶや煉瓦、小石を擲げ付ける者、砂を掴んで目潰しする者、棍棒を揮つて殴る者、鞘なりのサーベルで殴る者、忽ち附近一帯は怒號、叫喚の巷と化し警官と労働者は組打の渦巻となつた。この報傳はるや示威行列の沿道及び安治川發電所等を警戒してゐた警官約一千名は端建藏橋へ集注して來た。事態重大と聞くや警察本部から加々美特高課長、大木監察官は自動車で現場に駆け付け川口、九條、福島、朝日橋、新町、蘆原、船場の各署長等自動車上から聲を囁らして漸く鎮撫した。この衝突のために警察側も労働團も多數の負傷者を出した。

漸く端建藏橋で噴止め得た警察側は午後十時四十分に至り労働者十五名宛一團とし相當の間隔を保ち船津橋を渡らうとした。この關所を通過した労働團を順々に端建藏橋東詰及び船津橋南詰に集合し「労働歌」を高唱し再び大集團となつたので警察側は船津橋